



KORIYAMA WOMEN'S UNIVERSITY & COLLEGE

平成 29 年度 職能の更なる向上を目指して—— FD/SD 活動報告書

郡山女子大学 / 郡山女子大学短期大学部



平成 30 年 5 月
学園教育充実研究会

目次

1. 前期授業公開（対象指定型）	4
[大学] 公開授業および授業検討会「栄養教育論Ⅱ」（大学食物栄養学科 岡部聡子准教授）	4
[短大] 公開授業および授業検討会「教育心理学」（短大幼児教育学科 折笠国康准教授）	6
2. 後期全授業公開	8
3. 学園教育充実研究会 [夏の大会]	9
4. 各種研修会・ワークショップ	13
第1回食物栄養学科セミナー「病院管理栄養士の役割と今後の展望」	14
平成29年度事務局新任職員に係る研修	15
幼児教育学科セミナー「保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂をどのように読み解くべきか」	16
2017年度科研費説明会	17
学園教育充実研究会 SD 部門第1回研修会「本学における障がい学生支援の実施に向けて」	18
第2回食物栄養学科セミナー「研究を振り返って-食品脂質研究から血栓症・医科学研究へ-」	19
学園教育充実研究会 FD 部門第1回研修会「ディプロマポリシーを基にしたルーブリック評価の事例」	20
学生指導研修会「消費者教育出前講座 -若年層が被害者になりやすい消費者トラブルとその予防について-」	21
第3回食物栄養学科セミナー「会津の食文化」	22
学園教育充実研究会 FD 部門 第2回研修会 「プレゼンテーションの達人を目指そう！スライド作成の基本から学生指導に活かすまで」	23
5. 事務局職員 外部研修参加記録	24
事務局長	24
総務部	24
経理部	25
管財部	26
入学事務部	26
教務部	27
学生生活部	28
就職部	28
図書館	29
高校事務室	30
保健室	30
幼稚園事務室	30
学園教育充実研究会(SD 部門)	30
家庭寮	30

FD・SDの取組によせて

学園長 関口 修

FD や SD 共に目的とするところは、如何に学生の学修活動に寄与するか、と云う一点に懸かっていることでもあります。

昨今、文部科学省の中央教育審議会大学部会の答申を見ますと、SD について授業展開時に於ける特別専門職の導入を求める旨の論議が活発でしたが、具体策の提言には至らなかったようでもあります。これらの職種は、実習や実験時の特殊技能者を意味しているようで特別な学種には必要でしょうが、通常の学種ではコンピュータ技術者なのかもしれません。一般的には助手の職種であり、我が国の制度にはなじまないとの指摘もあります。

然しながら、教育内容の充実のためには、学科全体の在り方のなかで具体的な職種を研究すべき課題でもありましょう。

上述の観点は偏にSDとしてばかりではなく、FDの立場からも、建学の精神と建学の目的である女子教育から、学内の全ての部所に所属する教職員の責務は、学生・生徒・園児のために、自己の能力を最大限に伸長させ、奉仕する責務があるのです。

教育の観点を狭義で捉えると、授業内容の充実としてのシラバスの在り方が問われます。さらには表現方法の多様性も課題となるでしょうが、合目的で構造的に構成された授業の累積にあるのではないのでしょうか。

我々の職業は、学生・生徒・園児の成長を支援することです。学生・生徒は女子としての教養と倫理性を背景に専門性を培い、安心・安全な社会を希求する一員となることを最大の課題として力を尽くしています。

学生・生徒の手本になろうではありませんか。

本年度のFD・SD 活動を振り返って

学園教育充実研究会

主任 磯部 哲夫

本年度は一昨年度の新体制でのメンバーが定着し、役割分担に則って仕事を確実に遂行できた年度であった。年度当初の主要な課題としては、(1)授業の改善、(2)研修会の改善について、(3)FD・SD ネットワークの加入についての3点を挙げた。

「授業の改善」に関しては第一に、授業評価の活用の促進である。本年度は、各学科・各教員の活用が更に進むように、学生へのフィードバックを含めた授業評価の活用について検討するし工程を作成したが、各教員が授業改善書を学科主任へ提出する等の、活用法についての提案を年度内に行うことができなかった。

第二に授業公開の改善である。前期授業公開については、教授法に関するテーマを設定し検討会での活発な意見交換を図ることができた。後期の全授業公開については、各委員が学科内で参観の呼びかけを行い、参観者数が昨年度比12.7%の増加となった。

「研修会の改善」に関しては、今年度はオンラインのビデオ研修の活用を働きかけ、多様なニーズに合わせた研修を取り入れていくことが課題であった。これに対しグループウェアで教職員へ利用の啓発を図ったが、利用回数が3回と少ない結果となった。しかし、今年度も年間10回の多種多様なFD・SD研修会を実施し、各人の興味関心に応じた研修会を企画できたのではないかと考える。

「FD・SD ネットワークの加入」に関しては、他大学のFD・SDについての活動状況等を共有する為、東日本地域の大学・短大のFD ネットワークの加入について検討した。検討の結果、加入することによっての委員の仕事の負担増等を考慮し、非加入とすることに決定した。

「学園教育充実研究会(夏の大会)」は、昨年の「職能の更なる向上を目指して」というテーマを継承し、昨年度と同様にFD部門とSD部門に分かれて研修会を開催した。FD部門は、授業における学修成果の客観的な評価方法の一つであるルーブリック評価に焦点をあて、学生が「何ができるようになったか」という起点であるディプロマポリシーから、学科単位でルーブリックを作成し、各教員の担当科目のアセスメントの基準として頂くことを提唱した。SD部門は、個々のスキルアップを目指したコミュニケーション研修を実施した。事後アンケートにおいて、92%の肯定的評価を獲得した。

1964年から続く本研究会の教職協働の歴史の基盤の上に、更なる教職員の職能の向上を目指し、職能開発を進めていきたい。

1. 前期授業公開(対象指定型)

本学では教員の授業実践力の向上を目的に、学園教育充実研究会発足以来、対象学科を選定し授業公開を行っている。今年度は、大学は人間生活学科、短大は家政科食物栄養専攻が担当対象学科となった。

[大学]

実施概要

- 授業担当者 岡部 聡子 先生 (大学 食物栄養学科 准教授)
- 科目名 「栄養教育論Ⅱ」
○テーマ 『ライフステージ別栄養教育 高齢期』
高齢期における栄養上の課題を確認し、食の支援のあり方を考える
- 開講期 平成 29 年度 前期
- 公開日時 平成 29 年 6 月 16 日(金) I 時限目(8:50~10:20)
- 使用教室 62 年館 4 階 643 教室
- 対象学生 食物栄養学科 3 年生(56 名)・4 年生(1 名) 計 57 名
- 参加者数 授業参観 11 名(大学 6 名・短大 5 名) / 授業検討会 7 名(大学 5 名・短大 2 名)

公開授業の概要

1. 公開された授業(本時)のねらい

第 10 回 高齢期の栄養教育

高齢期が抱える身体的特徴、精神・心理的特徴について資料を基に理解を促し、栄養指導のポイントを理解する。一般論を知ったうえで、対象者個別に対応できる応用力や人を思いやる想像力を身につけることをねらいとしている。

2. 授業内容

(1) 導入(約 10 分)

前回の成人期の復習とワークの解答をおこない、前回の学習内容の定着を図る。グーグルアンケートを使用して、前回出した課題についての各人の意見を紹介し、栄養指導場面における表現や視点について共に共有し、考えることを重視する。

(2) 展開(約 60 分)

- ①高齢期の特徴や栄養評価についてパワーポイントを用いて説明する。
時間の短縮を図るため、主なパワーポイント等の資料は印刷して用意する。
- ②A4用紙 1 枚のワークを使用して、以下の学習行動を促す。
 - a. ワークに記載されている問題に目を通し、どんなことを訊かれているのか確認する。
 - b. 指定されたページを黙読し、大切と思う箇所にラインを入れる。
 - c. 教科書、資料を基に問題を解く。
 - d. 出来上がった解答について、周囲の人と見せ合い意見を交換する。

(3)まとめ(約 10 分)

高齢期の栄養指導場面を想定し、グーグルアンケートで問いかける。自分の意見や周囲の人と話し合った内容について回答する。

3. 工夫した点(参観のポイント)

【人間の多様性に対応した管理栄養士を目指す試み】

栄養教育の対象者はさまざまな背景を持つ個人ないしは集団である。一般的な知識として、今まで他の授業で学んできた内容を踏まえ正しい知識の習得が大切である。それが、基本となるが一般的な内容を目の前の『その人』にそのまま伝えたのでは効果は望めないと考えている。対象者が置かれている状況、理解度、行動の準備性等をアセスメントしながら何をどのくらいの分量で伝えたいのかを考える、そのような場をこの授業の中に盛り込みたいと考えている。

その一つの方法として、今年度は想定問題(例:『あなたは〇〇の管理栄養士として〇〇さんの栄養指導をすることになりました。あなたならどのように言葉かけをしますか?』)を取り入れ、グーグルアンケートで回答することでクラスの意見を見ることができる。その中で、「あー、こんな風に言えばいいんだ」とか「こんな表現もあったんだ」、「こんな風に捉える人もいるんだ」といった気づきを促している。

4. 授業の自評

前回の授業の振り返りとして、成人期の部分が予定時間より10分ほどオーバーしてしまった。できる限り要点をまとめて伝えたいと思っている。また、興味を持って授業を受けてもらいたいので、できる限り挿入するエピソードや語りかけは身近な問題を選ぶようにしている。授業中にうなずく学生もいて、何人かには響いたようである。

この授業は学部3年生の授業で、今までに学んだことの知識の活用をイメージしている。教科書や資料を基にワークを解くのだが、学生の中には情報をうまく見つけることができず、時間がかかっている者もいた。その後のグーグルアンケートを用いての意見交換は授業内で書き上げることができない者が多く、その部分については課題となった。次週までに意見を積み立てていきたい。もう少し、ワークにかかる時間を取れるよう、講義内容にハイライトをつけ、説明する内容と資料として読めばわかる内容に分けて講義内容を精査していく必要を感じた。

5. 公開授業に対する感想

昨年からは学園教育充実研究会で取り組んでいるアクティブラーニングの手法について学んでいる中で、昨年までの自身の講義スタイルに疑問を持ち始めました。昨年度の笹田先生の公開授業を拝見し、学生との対話を取り入れた授業にとっても感銘を受け、食物栄養学科50人クラスでできることはないだろうかと考え始めたのです。

本学科の学生は管理栄養士の国家試験を睨み、知識の定着を図ることそして、自ら勉強する姿勢をつくることが求められます。そして、私は授業を通して多様な対象者に適応し、知識を応用していく力を育てていきたいという思いがあります。授業の折々に試験に出題される項目を取り入れながら、また一方で管理栄養士としての姿勢を伝えていくといった試みの上に、本授業がありました。暗中模索の中、この方法で良いのだろうか、ワークをすることでノートづくりができていないがそれでいいのか…と自問自答しております。本日、お忙しい中、私の拙い授業を参観していただき、また検討会にご出席いただいた先生方に多くの励ましや、アドバイスをいただきました。いただいたアドバイスを胸に、今後も精進してまいります。ありがとうございました。



[短大]

実施概要

- 授業担当者 折笠 国康先生（短大 幼児教育学科 准教授）
- 科目名 「教育心理学」 / ○テーマ「学級アセスメント ①②」
- 開講期 平成 29 年度 I 期
- 公開日時 平成 29 年 6 月 29 日(金) IV 時限目(14:30~16:00)
- 使用教室 83 年館 3 階 833 教室
- 対象学生 幼児教育学科 1 年生 AB クラス(74 名)
- 参加者数 授業参観 17 名(大学 3 名・短大 14 名) / 授業検討会 11 名(大学 2 名・短大 9 名)

公開授業の概要

1. 公開された授業(本時)のねらい

第 11 回 学級アセスメント①②

教育関係者にある特有のピリーの存在、そのピリーが子どもに与える影響について知る。

2. 授業内容

- 1) 授業開始
- 2) 前回の振り返り
- 3) 概要

①学校現場の問題

- 不登校・いじめ・対教師暴力、学級崩壊、モンスターペアレンツ、集金未納、不良行為、不純異性交遊、特別支援の理解不足
- 卒業生(幼稚園)の事例

②問題提起「学校現場の教師にとって、何が問題か」

- 教師は、これらの対応スキルや理論を持たずに教壇に立つこと

③諸問題の核心

教師特有のピリーの存在 教師特有の「信念・認知の仕方」が核心と統計学的に突き止めた。

④教育の世界に問題を提起した偉大な論文の紹介・解説

「教師特有のビリーフが児童生徒に与える影響」河村茂雄(2000)

→ 良いビリーフ 「ラショナル・ビリーフ」

→ 悪いビリーフ 「イラショナル・ビリーフ」の説明

⑤イラショナルの特徴(教師特有のビリーフ)についての解説

- ・ 人生を不幸にするビリーフ
- ・ 自他を苦しめるビリーフ(非合理的な思い込み)

⑥「イラショナルビリーフ」教育関係者の特有の信念の事例

→ 「～しなさい!」「あなたは～」など ※心のよりどころ、受け止めるとは、ほど遠いアプローチ

⑦幼稚園教諭 保育士についての論文の紹介と解説

結論:新任時代を過ぎた保育者は、経験年数と力量が無関係である。

特有のビリーフは、年齢や経験年数で有意な差が確認される。

→ 「子どものためにと言いながら、子どもにとって最悪なアプローチをしている、そのことに気づいていない。」

⑧学生の練習 (1)

事例「早く!じゃないとおいて行くよ」 → 「あと、どれくらいあったら良い?」

⑨学生の練習 (2)

事例「その言い方は何!そんな言い方はだめ!」

→ 「そんな風に言われると悲しいな、悲しくなるのは先生だけじゃないと思うよ」

4)プリントの記入

5)次週の予告とプリントの回収

3. 工夫した点(参観のポイント)

- ・ 必要に応じ自身の経験談を交える
- ・ 保育士・幼稚園教諭にかかわるデータも織り交ぜる
- ・ 学術的な根拠や知見を基にする

4. 授業の自評

- ・ 計画通りの進行ができた
- ・ 生徒の感想も良好であった。

5. 公開授業に対する感想

- ・ 興味を持って参観して下さった先生方に感謝している。



2. 全授業公開

前期の授業公開が、公開者を限定して授業検討会で授業に対する認識を深めていくのに対し、後期の授業公開では、全員が授業を公開する。昨年同様、職員の授業への参観も受け入れた。

I. 背景と目的

- (1) 授業力の向上が必要な教員の研修機会を提供する
- (2) 全教員の授業力のさらなる向上
- (3) 「学び合い、教え合う学園へ」の相互扶助の精神によるFD・SD活動の実現

II. 公開方法

■公開時期 後期:11月中旬～下旬の2週間(11/14～25)。一般的には第10回、11回の授業。

■公開について

- ① 「公開免除の規定」により免除されない限り、全ての自身の授業を公開する。
- ② 参観者から事前の連絡が欲しい場合、注意事項がある場合、特別な理由などにより非公開の場合は、その旨をグループウェア上にあるスケジュールの「メモ欄」に記入する。
- ③ 上記②の記入は当該授業日の1週間前までに行う。
- ④ 参観者があった場合は、公開期間終了後に参観者名簿を充実研に提出する。

■参観について

- ① 教員、職員ともに期間中の参観を任意とする。
- ② 参観1回につき研修会参加1回分としてカウントする。
※参観の有無(回数)は提出された参観者名簿より、学園教育充実研究会が集計する。
- ③ 参観する際には、参観者名簿に記帳し、授業終了後には、感想用紙を授業担当者に提出する。
- ④ 参観は授業開始から終了までを原則とするが、2時限連続の授業等においては1時限分のみでも可とする。

III. 参観回数

- ① 教員 大学28回(19人)、短大22回(17人)
- ② 職員 なし

[授業参観の様子]



○講義科目「自然科学Ⅱ」(短大家政科食物栄養専攻)



○演習科目「陶芸Ⅱ」(短大生活芸術科)

3. 学園教育充実研究会(大会)

学園教育充実研究会(大会)は、昭和44年(1969年)より、学園の教育の充実を図ることを目的として実施されている教員および職員の研修大会である。

平成29年度は、昨年の「職能のさらなる向上を目指して」というテーマを継承し、FD部門とSD部門に分かれて研修会を開き、互いの研鑽を図った。

FD部門では、授業における学修成果の客観的な評価方法の一つであるルーブリック評価に焦点を当て、学科単位でディプロマポリシーからルーブリックを作成し、さらに各教員の担当科目のアセスメント基準を模索した。

SD部門では、高等教育および私立大学等をめぐる議論の動向について学ぶ予定であったが、講師の都合により、やむなく中止となり、個々のスキルアップを目指したコミュニケーション研修のみを実施した。

- 実施日程 平成29年8月29日(火)8:50~16:00
- 会場 本学園(建学記念講堂、83年館3階833講義室)
- 参加者 FD部門 大学教員29人、短大教員47人
SD部門 事務局職員(高校事務局を含む)39人 計115人。

【平成29年度 学園教育充実研究会(夏の大会)プログラム】

企 画		時 間	内 容
開会式		9:00~9:20	学園長挨拶・学園教育充実研究会主任挨拶
部門別研修会	FD 部門	9:30~12:00	外部講師研修会 ①授業改善をいかに進めるか ②ルーブリックの意義と活用事例 質疑応答 および 午後のインフォメーション
		13:00~15:00	学科別ディスカッション および ポスター作成・発表
		15:00~15:30	ポスター発表・説明
	SD 部門	12:15~15:30	外部講師研修会
閉会式		15:35~16:00	講評・学園教育充実研究会主任挨拶



[FD 部門] ○実施内容

<午前の部> 外部講師による研修会 9:30~12:00 (建学記念講堂 小ホール)

- ①授業改善をいかに進めるか ②ルーブリックの意義と活用事例

講師 西野 毅朗 氏

京都橘大学現代ビジネス学部経営学科講師、大学コンソーシアム京都 FD フォーラム実行委員 他
共著書 『アクティブラーニング』『大学FDのQ&A』 (いずれも玉川大学出版部)



<午後の部> 学科別ディスカッション および ポスター作成・発表

「アセスメントポリシーとしてのルーブリックを作成しよう！」 -ディプロマポリシーを基にしたルーブリック作り-





[SD 部門]

○実施内容 ※講師の都合により午前の部は急きよ中止された。

<午後の部> 外部講師による研修会 12:15~15:30 (83 年館 3 階 833 教室)

『コミュニケーション研修』 -アサーティブコミュニケーションを学ぶ-

相手(学生等)の考えを尊重した上で自分の考えを誠実に率直に伝える手法

アサーティブコミュニケーション → 感情を伴うと言いつらくなる時の対処法

講師 近 美智子 氏 (株)インソース 契約講師



[夏の大会に対する参加者の感想（抜粋）]

設問① FD 部門の午前の部について

- ・内容は大変良かった。はじめて耳にする「ルーブリック」は、その意味や内容、用い方の解説から必要であったように感じる。
- ・評価視点が見えて大変勉強になった。反面、詳細すぎてこれらが義務化されればますます時間と報告書に追われ、学生との対応時間が取れないことが恒常化して行く懸念がある。
- ・ルーブリックを知らなかったという先生もいたので、授業改善方法の提案の一例としては良かったのではないかと思った。実践できるかどうかは各々の授業形態や受講生数などにもよると思うが、授業の「改善」や「見直し」は継続して行わなくてはならないと感じた。
- ・ルーブリック活用でつまずいていたため、とても参考になった。

設問② SD・FD 各部門の午後の研修について

- ・DP ルーブリックの作成は時間的制約と議論の手がかりが少なかったこともあり、抽象的な議論・結果に留まったように感じる。もう少し議論の道筋をつけたり、集約するような働きかけがあると良かったように思う。
- ・作成した DP ルーブリックを今後の授業設計の指針にすることには、複数グループに分かれた学科で適正なまとめ作業が行われなかったため無理がある。
- ・DP ルーブリックを作成することで DP 自体を検証する機会にはなった。この時間を価値あるものとするためにも、DP と DP ルーブリックの改善を持続的に行う仕組みづくりが大切であると感じた。
- ・学科ごとの研修ではあったが、作成・発表したものを授業にいかせるよう資料として配布していただきたい。
- ・DP ルーブリックを作成したが、これがどのように生かされるのか再度検討が必要だと思う。
- ・今年の SD 研修はとても楽しく有益だった。
- ・SD 研修ではグループワークが多く、協力して課題に取り組み、発表するという形式がよかった。しばし日常業務を離れて、異なる部署の方との交流もできたので、個人的には大変有意義な時間だった。
- ・今後まとめなければならない内容についての話し合いだったので、有益だった。

設問③ 夏の大会全体に対して

- ・午前、午後とも良い内容だったと思う。
- ・他大学の実情をお話いただける講演会はとても良かった。専門家でありながら、大学でご勤務されている講師の方の話は、自分の大学にも反映できるのでとても良いと思う。
- ・今回は学科単位の研修だったが、学科として具体的に話し合いを進めてこなかった内容だったので、有意義だった。ただし、まとめただけに終わらないよう実践できるような研修を今後も希望する。
- ・4～5 年をサイクルとした計画で実施し、継続的な内容で実施して欲しい。講演で取り上げた内容を既に実施している先生の授業を見てみたい。授業公開と連動した計画で実施して欲しい。
- ・午前中の講師の方の話を伺って、他の大学でも学科改編が頻繁に行われ、柔軟に対応しているということを知ることができた。事務局の大変さを想像するが、常に最先端の情報を入手し、手続き方法などなど、教員にはできないことを研究し、効率よく対応できる事務方のプロの育成が必須だと思う。

4. 各種研修会・ワークショップ

本学では、平成 24 年度から「各種研修会」を導入し、徐々に実施回数を増やすなどの試みを重ねてきた。平成 26 年度には研修開催主体の他部署・委員会への開放や、年間参加回数ガイドラインの導入を行ったことから、本年度も活発に各種研修会が実施された。

	日程	タイトル	主催 および 講演者	参加人数
1	5/17	平成 29 年度第 1 回大学食物栄養学科セミナー 「病院管理栄養士の役割と今後の展望」	大学食物栄養学科 黒澤廣子先生	18
2	7/2	平成 29 年度事務局新任職員に係る研修	学園教育充実研究会 SD 部門 横田英隆氏(SD 部門主任) 加瀬 洋氏(SD 部門委員)	7
3	8/10	平成 29 年度幼児教育学科セミナー 「保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂を どのように読み解くべきか」	短大幼児教育学科 三瓶令子先生 猪股照子先生	22
4	9/13 9/14	科研費セミナー ① (経験談 福島先生) 科研費セミナー ② (経験談 福島先生)	教務部 佐久間邦友先生 福島寅太郎先生	39 ①18 ②21
5	9/21	学園教育充実研究会 SD 部門 第 1 回研修会 「本学における障がい学生支援の実施に向けて」	学園教育充実研究会 SD 部門 小林 徹先生	29
6	11/29	平成 29 年度第 2 回大学食物栄養学科セミナー 「これまでの研究を振り返って -食品脂質研究から血栓症・医科学研究へ-	大学食物栄養学科 坂野史明先生	29
7	2/8	学園教育充実研究会 FD 部門 第 1 回研修会 「ディプロマポリシーを基にしたルーブリック評価事例」	学園教育充実研究会 FD 部門 磯部哲夫先生(FD 部門主任)	27
8	2/15	平成 29 年度 学生指導研修会 「消費者教育出前講座-若年層が被害者になりやすい 消費者トラブルとその予防について-	教養・キャリア教育委員会 学生生活部 共催 福島県金融広報委員会・金融 広報アドバイザー、司法書士 坂井義明氏	54
9	2/21	平成 29 年度第 3 回大学食物栄養学科セミナー 「会津の食文化」	大学食物栄養学科 菊池節子先生	26
10	3/8	学園教育充実研究会 FD 部門 第 2 回研修会 「プレゼンテーションの達人を目指そう -スライド作成の基本から学生指導に活かすまで-	学園教育充実研究会 FD 部門 長田城治先生(FD 部門委員)	38
			総計	289

平成 29 年度 第 1 回食物栄養学科セミナー 「病院管理栄養士の役割と今後の展望」

病院の現場での管理栄養士の役割は患者の栄養状態の把握と栄養管理である。さらに厨房と病棟を繋ぐことである。病棟に出て患者の症状や食事状況を知ることは管理栄養士にしかできない業務である。しかし、現実にはマンパワー不足等により困難な状況である。日々の食事が病気の予防になり、治療期間の短縮に繋がり医療費の軽減になることを学会発表や論文を通して管理栄養士自身が社会に訴え、多くの管理栄養士が病院で活躍できるよう働きかけていかなければならない。そのためにも臨床の現場で治療に貢献できる管理栄養士の育成に尽力していきたい。

日本は超高齢社会に突入し、2025年には団塊の世代が75歳を迎える。その中で、最も重要なことは「健康寿命」である。健康寿命を伸ばすための食事や、病気を予防する食事などの食生活が重要になり、管理栄養士はこれから増々注目される職種であることは間違いない。

演者はこれまでの病院管理栄養士の経験を基に、今後の管理栄養士の展望について紹介した。

- 主催 大学食物栄養学科
- 日程 平成 29 年 5 月 17 日(水) 16:10~17:40 (V時限目)
- 会場 創学館 2 階 521 教室
- 講師 黒澤 廣子先生 (大学食物栄養学科 講師)

■実施内容

- (1) 病院管理栄養士業務(給食管理業務)
- (2) 病院管理栄養士業務(栄養管理業務)
- (3) // NST活動のきっかけとなったNHKスペシャルについて
- (4) 病院管理栄養士業務(栄養食事指導)
- (5) // 糖尿病の新しい指導方法(カーボカウントについて)
- (6) 今後の展望(50床に1名の管理栄養士・専門管理栄養士制度・在宅訪問栄養指導)



平成 29 年度事務局新任職員に係る研修

本年度の新任者は大学・短大の新卒者と企業等において就業経験を有している者であった。
例年のおと、集合研修を行い、SD 部門の委員が講師を務め、私立学校に勤務する者として必要な基礎事項について説明を行い、新卒者については、社会人としての基本的な心構えについて伝えた。

- 主催 学園教育充実研究会 SD 部門
- 日程 平成 29 年 7 月 2 日(日) 13 時 55 分～15 時 07 分 学園行事があり出勤日となっている
- 会場 創学館 5 階 会議室
- 講師 横田 英隆氏 (学園教育充実研究会 SD 部門主任)、加瀬 洋氏 (同 委員)

■実施内容

- (1) 参加者 7 名
- (2) 学校職員の基本的事項に係る簡単な説明
総務部加瀬氏から私立学校の特色、学校制度、法令について、経理部横田氏から私立大学等経常費補助金の概要について基本的な解説が行われた。



幼児教育学科セミナー 「保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂をどのように読み解くべきか」

本セミナーは、保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂を受け、保育所と幼稚園でどのような保育が展開されているのかについて、はじめに DVD 教材を視聴しながら情報共有を行った。その後、改定のポイントや保育者養成校としておさえるべきポイント、これから保育者をめざす学生にどのような力が求められているのかなどについて、幼児教育学科三瓶主任が解説を行った。続いて保育実践の立場から、猪股講師より、現場サイドの事例と実習担当者としての視点について、解説を行った。最後に、参加者から感想や質問があり、充実したセミナーとなった。

■主催 短大幼児教育学科

■日程 平成 29 年 8 月 10 日(木)12:50～14:20

■会場 83 年館 2 階 832 教室

■講師 三瓶 令子先生（幼児教育学科 教授）、猪股 照子先生（幼児教育学科 講師）

■実施内容

(1) DVD教材による情報共有

- ・非認知能力の解説および、どのように育むかについての事例と解説
- ・保育者の人出不足、役割について
- ・世界の動向、保育における質保証
- ・子ども園の事例

(2) 改定のポイント、保育者養成校として学生指導の際に抑えるべきポイントなど(三瓶)

- ・幼稚園教育要領の改訂・教育基本法の再認識・保育所保育指針の改定・児童福祉施設
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿について
- ・「資質、能力」の解釈について
- ・待機児童に対する郡山市の現状

(3) 保育実践の現場サイドおよび実習担当者としての視点について(猪股)

- ・待機児童問題・認可保育園の順位の仕組みなど
- ・実習先からの要望、学生の実態→基本的態度

(4) 質疑応答

- ・幼教の学生は、グループワークもできる。協力できる。行動力がある。しかし、切り替えが難しいと思う。将来、先生という立場でどうなるのか、など。



2017 年度 科研費学内説明会

2017 年度の科研費応募にかかわる事項について、9 月 6 日に行われた文部科学省及び日本学術振興会主催の平成 30 年度科学研究費助成事業公募要領等説明会の資料をもとに説明した。

その後、不正防止委員会から研究倫理教育に関する連絡、科研費獲得者からの経験談として文化学科の福島先生から獲得に関する秘話をうかがった。

■主催 教務部

■日程 平成 29 年 9 月 13 日(水)及び 14 日(木) 両日とも 16:10～17:10

■会場 創学館 2 階 521 教室

■講師 佐久間 邦友先生 (大学家政学部人間生活学科 講師)

■実施内容

(1) 2017 年度申請に係る学内のスケジュール

(2) 申請等にかかわる変更点

(3) 科研費申請にかかわる留意点

(4) その他

①不正防止委員会より

②科研費獲得者からの経験談 福島 寅太郎先生 (短大文化学科 教授)



平成 29 年度学園教育充実研究会SD部門 第 1 回研修会 「本学における障がい学生支援の実施に向けて」

昨年 4 月に障害者差別解消法が施行され、障がいのある学生への支援が一層重要視されております。近年の「障がい」についての考え方、大学における障がいのある学生支援の方向性等について、本学教授 小林 徹先生を講師としてお招きし、お話いただきました。

- 主催 学園教育充実研究会SD部門
- 日程 平成 29 年 9 月 21 日(木) 14:30 ~ 15:30 (Ⅲ時限目 60 分)
- 会場 創学館 2 階 521 講義室
- 講師 小林 徹先生 (短大幼児教育学科 教授)

■実施内容

- (1) 発達障がいとは
- (2) 特別な教育的ニーズとは(ウォーノック報告・「連続性」)
- (3) 障がい定義の変遷
- (4) インクルーシブ教育システム
- (5) 支援に関わる基本理念・支援体制



平成 29 年度 第 2 回食物栄養学科セミナー

「これまでの研究を振り返って -食品脂質研究から血栓症・医化学研究へ-」

演者がこれまで行ってきた主な研究について解説しつつ、栄養との関連や最近の話題などを踏まえて紹介した。まず、大学および大学院時代に行っていた研究として「機能性油脂の生体調節機能に関する研究」を紹介した。次いで、大学院修了後に行ってきた研究として「血栓症に関わる生体分子の研究」を紹介した。これらの研究では、①血栓形成に関わると考えられる生体分子を欠損(ノックアウト)させたマウスや、②血栓症に影響を及ぼす可能性のある遺伝子変異を導入(ノックイン)したマウスを樹立して、血栓形成解析系や血栓症誘発モデルを用いて影響を解析してきたので、その一例として ADAMTS13 欠損マウスおよびプロテイン S 変異マウスの解析結果を紹介した。またこれらに関連して、血液凝固とビタミン K に関するピックや、ゲノム編集技術を用いた新しい遺伝子改変法についても解説した。

■主催 大学食物栄養学科

■日程 平成 29 年 11 月 29 日(水) 16:10~17:40 (V時限目)

■会場 創学館 2 階 521 教室

■講師 坂野 史明先生 (大学食物栄養学科 准教授)

■実施内容

- (1) 機能性油脂の生体調節機能に関する研究
- (2) 血栓症に関わる生体分子の研究
- (3) ADAMTS13 欠損マウスの研究
- (4) プロテイン S 変異マウスの研究
- (5) ビタミン K サイクルとワルファリンについて
- (6) ワルファリンと DOAC について
- (7) ゲノム編集を用いた遺伝子改変について
- (8) まとめと今後の展望



学園教育充実研究会 FD部門 第1回研修会

「ディプロマポリシーを基にしたルーブリック評価の事例」

学園教育充実研究会FD部門では、2017年度夏の大会において、学科単位でディプロマポリシーを基にしたルーブリック作成を実施した。さらに、この作成したルーブリックが各学科においてどのように活用し実践されているかという事例発表型の研修会を下記の通り開催した。その内容は、ルーブリック評価の流れや問題点など、実践から見てきた内容であり興味深いものであった。また、質疑応答を通して、各学科で実践するための課題や方法等を深めるための機会となった。今回の研修会における事例を各学科において参考にしていただき、今後の成績評価における公平性、客観性、厳格性を保つ評価方法の参考にしていきたい。

■主催 学園教育充実研究会FD部門

■日程 平成30年2月8日(木) 10:30～11:30 (Ⅱ時限目 60分)

■会場 62年館4階 642講義室

■講師 磯部 哲夫先生 (短大音楽科 准教授)

■実施内容

(1) 夏の大会の復習

(2) 短大音楽科の事例

・ルーブリック評価の作成手順

・DP(ディプロマポリシー)ルーブリックをもとにしたルーブリック評価 / 2年後期試験「声楽Ⅱ」

(3) ルーブリック評価の流れ

・ルーブリックの流れ

・学生へのフィードバック → 次の学期に繋げていく

・小項目数の問題点

(4) ルーブリック評価とインプレッションによる評価の100点法の平均値対比

(5) アンケート結果

(6) ルーブリック評価の考察

(7) ルーブリック評価の課題

(8) まとめ

(9) 質疑応答 散会



平成 29 年度 学生指導研修会

「消費者教育出前講座 -若年層が被害者になりやすい消費者トラブルとその予防について-」

2015年に選挙権を18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が成立し、18歳から投票権が認められるようになりました。これに伴い、民法の成年年齢の引き下げが検討されており、政府は今年の通常国会に成年年齢を18歳に引き下げる民法改正案を提出し、成立を図るとのことです。この法案が成立すれば、18・19歳が親などの同意なくローン契約が結べるようになるため、若年層による悪質商法被害の増加が懸念されています。

そこで本学においても、若年層が被害者になりやすい消費者トラブルの実態を知り、被害の防止と被害者の救済のための対応策を学ぶことが学生指導上必要と考え、研修会を実施いたしました。

- 主催 学生生活部、教養・キャリア教育委員会 共催
- 日程 平成30年2月15日(木) 10:30～11:30 (Ⅱ時限目60分)
- 会場 創学館2階 521講義室
- 講師 坂井義明氏 (福島県金融委員会金融広報アドバイザー、司法書士)

■実施内容

「若年層が被害者になりやすい消費者トラブルとその予防について」

- ①現代における消費者トラブル3態 ②悪質商法 ③契約と責任 ④未成年と成年 ⑤悪質商法の手口
- ⑥アポイントメントセールス ⑦なりすまし詐欺と種類 ⑧多重債務問題と多重債務にならないための心得

(※一部、再現映像を交えて解説)



食物栄養学科セミナー：会津の食文化

福島県は、山脈や河川によって、浜通り・中通り・会津地方と、地域的に三分される。これらの諸地域は同一県内ではあるが、気候風土は勿論のこと、行政・経済・文化の面でも、また歴史的な歩みも異なる。中でも会津地方は、他の二地方からみればまとまりがある地方で、海に遠い積雪地帯という自然条件から、各種の保存食が発達している。それらは、古来当該地区の人々の食生活と深くかかわり、今に伝承されているもの、存続の危機にさらされているものなど、様々である。

本セミナーでは、これら会津地方の保存食である「つと豆腐」、「つむじかえり」、「すし漬」を取り上げ、身土不二の食生活の知恵を探っていただく一助として、以前に実施したアンケート調査や文献調査結果から、それらの呼称、調製方法、喫食方法、喫食の地域分布、その伝承経路などについて紹介した。また、つと豆腐については、その特徴を捉えるために、成分分析ならびに物性測定などの調理科学実験結果にも触れた。併せて、すし漬については、近年の現地取材調査結果を詳細に紹介し、日本で最古のタイプのすしが本県奥会津に存在することを周知いただいた。

なお、参加された教職員の方々には、実際に、①つと豆腐、②つむじかえり、③にしんの山椒漬けを試食いただき、次のような感想を得た。①つと豆腐：煮抜き豆腐特有の弾力があり、噛むほどに豆腐の凝縮した味を感じることができて美味しかった。電子レンジで簡単に作れるので、ぜひ、自宅で作ってみたい。②つむじかえり：色がピンクでとても可愛い。甘酸っぱさも丁度よく、さっぱりしていて美味しかった。今年は目先を変えて、お正月料理に取り入れてみたい。③にしんの山椒漬け：美味しかった。食べやすかった。このようにしんの食べ方は初めてである。酒の肴にもよい。新緑の季節、山椒の葉の緑が食欲をそそりそう。

和食は、2013年12月に、ユネスコ無形文化遺産に登録された。参加された皆様には、今回を機に、改めて和食のよさ、生活の中の保存食の位置づけを認識していただいたことと思う。また、管理栄養士、栄養士を養成する我々には、これら地域に根差した郷土の料理を次世代に伝承する責務が課せられている。責務を全うできるよう、今後もさらに教育研究に務めていきたい。

- 主催 大学食物栄養学科
- 日程 平成30年2月21日(水) 16:10~17:40 (V時限目)
- 会場 創学館2階 521教室
- 講師 菊池 節子先生 (大学食物栄養学科 准教授)

■実施内容

- (1) 福島県の立地条件と調査地の背景
- (2) つと豆腐：呼称、調製方法、喫食方法、喫食の地域分布、物理的科学的特性、全国の類似料理など
- (3) つむじかえり：呼称、調製方法、喫食方法、喫食の地域分布、風習、栃木県しもつかれとの関連
- (4) すし漬：呼称、調製方法、喫食方法、喫食の地域分布(すし漬け系と山椒漬け系)、すしの歴史における位置づけなど
- (5) まとめと今後の抱負
- (6) つと豆腐、つむじかえり、にしんの山椒漬けの試食



学園教育充実研究会 FD部門 第2回研修会

「プレゼンテーションの達人を目指そう！ ～スライド作成の基本から学生指導に活かすまで～」

今回は、現在年契約をしております PHP ビデオアーカイブズプラスのビデオの活用と、本学の長田城治講師による講話を合わせて、パワーポイントを活用したプレゼンテーションの研修会を企画し、開催した。

講演テーマは、パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法と、スライド作成における基本的な考え方や作成上のコツの2点であった。長田講師は卒業研究発表のプレゼンテーション指導には定評があり、建築学科出身特有のデザイン性と相手にわかりやすく伝える効果的な方法について、講師のアイデアが詰まった講習会となった。

研修を通して、研究やレポート発表時に必要なプレゼンテーションの指導ポイントまでを教示いただき、当日は38名の参加者があり、盛況に会を閉じた。事後のアンケートでは次回、実践編を願う声が多く挙がった。

- 主催 学園教育充実研究会 FD 部門
- 日程 平成30年3月8日(木) 14:30～16:00 (IV時限目)
- 会場 創学館3階 531 講義室
- 講師 長田 城治先生 (大学家政学部人間生活学科 講師)

■実施内容

- (1) PHP アーカイブズプラスを使用したプレゼンについてのビデオ鑑賞
- (2) プレゼンテーションの目的に合わせた内容の構成について
- (3) 効果的なプレゼンテーション例
- (4) 学生への指導ポイント
- (5) まとめ
- (6) 質疑応答
- (7) アンケート回収 散会



5. 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することがSD活動においても重要である。本年度の各部署の外部団体主催の研修会への参加状況をまとめた。

事務局長

今期該当なし

総務部

	件名	主催者	場所	内容
1	平成29年度 学校基本調査の説明会	文部科学省生涯学 習政策局	東北大学片平さくらホ ール 2F(仙台市)	学校基本調査に関する今年度の変更点と 留意点、提出締切等についての説明会
2	第8回 教育ITソリューションEXPO	リードエグジジションジ ャパン株式会社	東京ビックサイト (東京都)	IR用ソフトウェア、学生IRに関する導入事例 について知見を得る。
3	私学経営研究会セミナー「非正規 教職員の雇用管理とその実務」	私学経営研究会	ガーデンパレス (東京都)	労働法改正による非正規教職員への対応 について、雇用管理と実務に関する情報収 集・規定化に向けた内容確認。
4	日本私立大学協会東北支部 平成29年度支部事務研修会 第1回運営委員会	日本私立大学協会 東北支部	仙台ガーデンパレス (仙台市)	平成28年度の事務研修会実施報告およ び平成29年度の事務研修会実施計画案 の確認
5	平成29年度 私立大学等経常費補助金説明会	日本私立学校振興・ 共済事業団	東北福祉大学 (仙台市)	私立大学等経常費補助金の内容、同補助 金の前年度からの変更内容等に関する研 修会
6	日本私立大学協会東北支部 平成29年度支部事務研修会 第2回運営委員会	日本私立大学協会 東北支部	仙台ガーデンパレス (仙台市)	平成29年度事務研修会における協議事 項決定、各分科会担当運営委員の決定お よび各分科会運営の協議を行った。
7	レーザー<学校給与> Ver9.0 操作セミナー	グレースィティ株式 会社	川口センタービル(川 口市)	学校給与システムに関する基本操作・応 用操作等システム理解向上に向けた研修
8	大学情報活用フォーラム (第1部のみ)	株式会社SRA東北	ホテルメトロポリタン仙 台(仙台市)	SRA東北と東北大学で共同開発したIR用 ソリューションについて紹介。 山形大学の取組事例は特に参考となり本 学でも仕組みを構築し一部導入。
9	平成29年度 第1回私学共済事務担当者研修会	日本私立学校振興・ 共済事業団	仙台ガーデンパレス (仙台市)	共済業務の基礎的な内容を中心とし資格・ 給付関係コースおよび年金コースを受講。
10	平成29年度 全国障害学生支援セミナー体制整 備支援セミナー	日本学生支援機構	一橋大学学術総合セ ンター(東京都)	障害学生への取り組み事例および配慮等 に関する説明

11	平成 29 年度日本私立大学協会 東北支部事務研修会	日本私立大学協会 東北支部	仙台ガーデンパレス (仙台市)	各大学から提案された課題に対する分科 会別の各大学からの状況報告と意見交換 及び協会本部からの私立大学を取り巻く情 勢に関する報告(尚、運営委員としても参加)
12	平成 30 年度科学研究費助成事業 公募要領等説明会	日本私立学校振興・ 共済事業団	東京大学安田講堂 (東京都)	科研費改革の概要、科研費助成事業の変 更点およびリサーチマップ及び共同利用・ 共同研究活動について説明
13	researchmap 機関担当者向け説明会	大学共同利用機関 法人 情報・システ ム研究機構 国立情 報学研究所	国立情報学研究所 (東京都)	教員の個人調書への転用を考慮に入れ、 仕様確認および導入に関する操作説明研 修を受講
15	私立大学退職金財団業務説明会	公益財団法人 私立大学退職金財 団	私学会館「アルカディ ア市ヶ谷」 (東京都)	財団の財政方式、退職資金交付金・掛金 の計算方法および補正掛金率設定の仕組 みについて基本事項を中心する説明
16	大学IR実践セミナー	株式会社 理経	富士ソフトアキバプラ ザ(東京都)	(株)インテージスクウェアより、IR関連業務が 移管された(株)理経によるこれからのIRにつ いて学ぶ。
17	年末調整操作セミナー	グレースティ株式 会社	TKP仙台西口ビジネ スセンター (仙台市)	年末調整に関して、システム運用方法の確 認と操作手順の確認。
18	大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会(第 2 回)	独立行政法人大学 入試センター	メルパルク東京 (東京都)	30 年度大学入試センター試験の変更点、 問題訂正等の説明及び情報提供
19	平成29年度学校法人の運営等に関 する協議会	文部科学省	品川きゅりあん (東京都)	「平成 29 年度 学校法人の運営等に関す る協議会」の冊子に基づき、文科省各部署 から所管事項の説明を受けた

経理部

	件名	主催者	場所	内容
1	平成 29 年度 私立大学等経常費補助金説明会	日本私立学校振興・ 共済事業団	東北福祉大学 (仙台市)	私立大学等経常費補助金の内容、同補助 金の前年度からの変更内容等に関する研 修会
2	平成 29 年度 私立短期大学経理事務等研修会	一般財団法人 私学研修福祉会	オークラアクトシティホ テル浜松(浜松市)	私学行政をめぐる最近の動向と課題、寄付 金募集の現状と課題について学ぶ。
3	学校法人における予算編成・管理の すすめ方	一般社団法人 日本経営協会	東京・代々木・本会内 セミナー室(東京都)	予算制度、学校法人会計、予算編成手続、 予算管理の進め方について、演習問題等で 検討・発表。

管財部

	件名	主催者	場所	内容
1	NEW EDUKATION EXPO 2017	NEW EDUKATION EXPO 2017 実行委員会	東京ファッションタウンビル(東京都)	平成 33 年より施行される次期学習指導要領に向けた学校環境づくりで、今後の学校施設の在り方等について学ぶ。
2	平成 29 年度 私立大学等経常費補助金説明会	日本私立学校振興・共済事業団	東北福祉大仙台駅キャンパス (仙台市)	私立大学等経常費補助金の内容、同補助金の前年度からの変更内容等に関する研修会
3	太陽光発電事業セミナー	一般社団法人福島県再生可能エネルギー推進センター	コラッセふくしま (福島市)	省エネルギーに関して再考する機会となり、太陽光を含むトータルエネルギーマネジメントの重要性について学ぶ機会となった。
4	平成 30 年度大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会(第 1 回)	独立行政法人大学入試センター	秋田ビューホテル (秋田市)	30 年度大学入試センター試験の変更点、要領等の説明及び高大接続改革に関する情報提供
5	平成 29 年度自衛消防業務講習 および再講習	公益社団法人 仙台市防災安全協会	消防管理研修センター (仙台市)	自衛消防組織のリーダーに必要な基本的な知識及び消防技術の習得 (更新のため 2 回受講/9 月・11 月)
6	第 9 回産学連携人材ニーズ交流会	公益社団法人 私立大学情報教育協会	AP 市ヶ谷 LearningSpace (東京都)	AI などの産業構造の変革に対応していくための産学連携での分野横断型授業モデルや、人材の育成をテーマとするセミナー

入学事務・広報部

	件名	主催者	場所	内容
1	平成29年度 新入社員研修会	㈱東邦銀行	郡山市労働福祉会館 (郡山市)	社会人としてのマナー、渉外対応についての研修
2	第16回「学生獲得戦略セミナー」 (東京会場)	大学新聞社	ライセンスアカデミー 本社ビル	広報の方法、高校の教員からの見え方と対応策についての研修
3	H30 年度学生募集 進学相談会、 学生募集戦略セミナー	株式会社ライセンス アカデミー	ライセンスアカデミー 本社ビル	広報の方法、高校の教員からの見え方と対応策についてのセミナー
4	第 26 回東北大学高等教育フォーラム	東北大学高度教養 教育・学生支援機構	東北大学百周年記念 会館	新共通テストに関する基調講演と他大学の 新入試への取組事例等を学ぶ
5	学生募集セミナー	株式会社エデュ ース	中央大学駿河台記念 館	入学者選抜実施に関する最近の動向を踏 まえた対応・事例についての研修

6	平成 29 年度大学入学者選抜 教務関係事項連絡協議会	文部科学省	メルパルク東京	教務関係および入学選抜試験にかかる諸 問題、高大接続に関する情報提供
7	2017 年度【Between セミナー】 (6 月)	株式会社 進研アド	TKP ガーデンシティ勾 当台	競争化時代を乗り越える入試・広報戦略につ いてのセミナー
8	第 17 回 私立短期大学入試広報担 当者研修会	一般財団法人私学 研修福祉会	共立女子大学・短期 大学	大学入学者選抜改革の取組および他大学 等の取組事例(手法・ツール)を学ぶ
9	H30 年度学生募集進学相談会、 外部セミナー	株式会社ライセンス アカデミー、株式会 社エヂュース、株式 会社進研アド	中央大駿河台記念館	2019 年度 募集戦力と計画立案の講演 内容につき、ブランディング戦略、入学定員 達成を目指すセミナー
10	2017 年【Between セミナー】 (10 月)	株式会社 進研アド	KTP ガーデンシティ 勾当台	高大接続改革を軸とした新しい学生募集に ついてのセミナー

教務部

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	平成 29 年度大学入学者選抜・ 教務関係事項連絡協議会	文部科学省	メルパルク東京 (東京都)	教務関係および入学選抜試験にかかる諸 問題、高大接続に関する情報提供
2	平成 29 年度私立大学等経常費補 助金説明会【実践編】	日本私立学校振 興・共済事業団	東北福祉大学仙台駅 東口キャンパス (仙台市)	私立大学等経常費補助金の内容、同補助 金の前年度からの変更内容等に関する研 修会
3	大学入試センター試験 福島県連絡会議の開催について	福島大学	福島大学 (福島市)	現時点でのデータを基に県内試験場の配 分案の提示と協議
4	教職課程再課程認定等に関する説 明会	文部科学省初等中 等教育局教職員課	宮城教育大学 (仙台市)	教職課程再課程に関する事務手続きに関 する説明会
5	平成 29 年度 障害学生支援実務者 育成研修会【基礎プログラム】	独立行政法人 日本学生支援機構	東京国際交流館ブラ ザ平成 (東京都)	障害学生支援に関する基本的な考え方お よび支援の流れと教職員の役割・相談体 制について学ぶ
6	平成 30 年度大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会(第 1 回)	独立行政法人大学 入試センター	秋田ビューホテル(秋 田市)	30 年度大学入試センター試験の変更点、 要領等の説明及び高大接続改革に関する 情報提供
7	平成 30 年度 科学研究費助成事業公募要領等 説明会	日本私立学校振 興・共済事業団	東京大学安田講堂 (東京都)	科研費改革の概要、科研費助成事業の変 更点およびリサーチマップ及び共同利用・ 共同研究活動について説明
8	平成 29 年度 大学教務部課長担当者研修会 (通算第 55 回)	一般財団法人 私学研修福祉会	オークラアクトシティホ テル浜松 (浜松市)	学務・教務・カリキュラム改革の動向、教職 協働の推進と大学職員の能力開発につ いて学ぶ

9	平成 29 年度 教職課程認定等に関する事務担当者説明会への出席	文部科学省初等中等教育局	国立オリンピック記念 青少年総合センター (東京都)	制度改正及び教職課程コアカリキュラム等について、準備手続き、手続きに関わる留意点の説明会
10	平成 29 年度 私立短期大学教務担当者研修会	一般財団法人 私学研修福祉会	大阪ガーデンパレス (大阪市)	教学改革の実現に向けて、行政説明、講演、事例報告
11	平成 30 年度大学入試センター試験 入試担当者連絡協議会(第 2 回)	文部科学省初等中等教育局	メルパルク東京 (東京都)	30 年度大学入試センター試験の変更点、問題訂正等の説明及び情報提供
12	平成 29 年度 東北厚生局管内養成施設等説明会	東北厚生局	仙台市花京院スクエア (仙台市)	①事務手続きマニュアルの配付、②事務手続きの説明

学生生活部

	件名	主催者	場所	内容
1	平成 29 年度 東北地区学生指導研修会	東北地区学生指導 研究会	宮城教育大学 (仙台市)	今年度から施行された SD 研修義務化についての講演および障害学生への配慮等について学び同業他社との情報交換
2	平成 29 年度日本学生支援機構 奨学金適格認定返還指導研修会	独立行政法人 日本学生支援機構	パレスへいあん (仙台市)	異動・適格認定について再確認することができた。給付学生と貸与学生は、相違点が多いため手続き上の留意点に気を付け対応する。
3	学生教育研究災害傷害保険説明会	公益財団法人 日本国際教育支援 協会	仙台東京海上日動ビル(仙台市)	保険の概要および状況報告と平成 30 年 4 月 1 日からの医療保険金改定について説明。治療日数 4 日から医療保険支払可。他プランの紹介。
4	平成 29 年度日本学生支援機構 奨学金業務連絡協議会	独立行政法人日本 学生支援機構	パレスへいあん (仙台市)	奨学金関連業務に関する変更点等の情報収集を目的とした連絡協議会。平成 30 年度からマイナンバー制度を機構側が利用していくとの情報展開があった。従来業務に関して大きな変更点なし。

就職部

	件名	主催者	場所	内容
1	保育人材対策連絡会	福島県子ども未来 局子育て支援課	ふくしま中町会館 (福島市)	大学でのキャリア教育に関して他大学の状況等を踏まえた講演がなされた。

2	マイナビキャリア教育セミナー	株式会社 マイナビ	株式会社マイナビ宮城支社（仙台市）	総会にて、予算案の確認・登板校の確認を行い、相談学生が求めているものなどについて講演がなされた。
3	平成 29 年度 東北地区私立短期大学 就職指導研究会	東北地区私立大学 就職問題協議会	仙台サンプラザホール （仙台市）	東北地区私立大学合同就職セミナーに関する事前打ち合わせおよび学生引率指導と当日対応。
4	平成 29 年度 就職部課長相当者研修会	一般財団法人 私 学研修福祉会・日 本私立大学協会	大阪ガーデンパレス （大阪市）	私立大学協会に加盟する大学就職部課長相当者での重要課題について、班別研修および取組事例情報交換
5	ふくしま就職情報交流会	福島県商工労働部 雇用労政課	ビックパレットふくしま （福島市）	企業の人材確保・売り手市場で学生が企業を理解しないで就職するミスマッチ防止をメインとした情報交換会
6	マイナビ 就職 EXPO	(株)マイナビ	グランテ 21 セキスイハイムス・パ・アリーナ （仙台市）	(株)マイナビ主催のマイナビ EXPO 参加学生の引率および指導。

図書館

	件 名	主 催 者	場 所	内 容
1	第 34 回福島県内大学図書館連絡協議会総会	福島県内大学図書館連絡協議会	会津大学 （会津若松市）	福島県内の図書館連絡協議会。報告事項および審議事項等の確認承認。
2	私立大学図書館協会 第 78 回総会・研究大会	私立大学図書館協会	OIT 梅田タワー （摂南大学:大阪市）	学術情報のオープン化と大学図書館
3	第 72 回東北地区大学図書館協議会総会	東北地区大学図書館協議会	秋田市にぎわい交流館(秋田市)	東北地区大学図書館協議会での審議事項の確認と協議事項の承認、内容確認。
4	私立大学図書館協会東地区部会 研究部 2017 年度研修会	私立大学図書館協会東地区部会	明治大学中央図書館 （千代田区）	クレーム処理等に関して、クレームから利用者満足度向上の方法および事例検討。
5	第 24 回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会	第 24 回福島県内 大学図書館連絡協議会実務者研修会	会津大学短期大学部 （会津若松市）	図書館職員に求められる利用者に伝わるPOP等の作成・デザインについて学ぶ
6	これからの学術情報システムに関する意見交換会	国立情報学研究所・ 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議	ベルサール神保町 （千代田区）	これからの学術システムの方向性と課題、電子リソースデータ共有について学ぶ

高校事務室

	件名	主催者	場所	内容
1	福島県私立中学高等学校 保護者会総会講演会	福島県私立中学高 等学校保護者会	陽日の郷あづま館 (二本松市)	講演「出会いと心のキャッチボールが明日の 私学助成につながる」 日本私立小学校中学校高等学校保護者 会連合会長 中村良彦
2	福島県私立中学高等学校 保護者会第28回研修会	福島県私立中学高 等学校協会	吹の湯旅館 (いわき市)	研修「各単位保護者会活動状況と課題」 講演「神戸から福島へ～学びのネットワー クという挑戦～」 一般社団法人ふくしま学 びのネットワーク事務局長 前川直哉
3	平成29年度 県中地区 私立高等学校保護者懇話会	郡山女子大学附属 高等学校(当番校)	郡山ビューホテルアネ ックス (郡山市)	福島県私学振興大会への取組み、県中地 区5校私立高等学校保護者会の勉強会
4	第43回福島県私学振興大会 記念講演	福島県私立中学高 等学校保護者会	とうほう・みんなの文化 センター (福島市)	講演「こころとからだを元気にする笑いの 効果」 福島県立医科大学健康増進センタ ー長 大平哲也
5	平成29年度 福島県私立中学高等学校 事務部会	福島県私立中学高 等学校事務部会	ホテルハマツ (郡山市)	事務部会意見交換 (教員募集方法、クラ ブ活動の休養日等) 財務状況報告書作成
6	防災講演会 「2018年防災の集い」	郡山地方広域消防 組合消防本部	ビックパレット福島 (郡山市)	講演「災害とは何?～どのようにして命を 守るか～」 東京女子大学名誉教授 広瀬弘忠

保健室

今期該当なし

幼稚園事務室

今期該当なし

学園教育充実研究会(SD部門)

今期該当なし

家庭寮

今期該当なし

平成 29 年度 学園教育充実研究会（大学・短大部門）

部 門	名 前	所 属
FD 部門	磯部 哲夫（委員長・FD 部門 主任）	短期大学部 音楽科
	岡部 聡子（FD 部門 副主任）	大学 家政学部 食物栄養学科
	長田 城治	大学 家政学部 人間生活学科
	郡司 尚子	大学 家政学部 食物栄養学科
	澤渡 優喜	短期大学部 家政科食物栄養専攻
	柴田 卓	短期大学部 幼児教育学科
	松田 理香	短期大学部 生活芸術科
SD 部門	横田 英隆（SD 部門 主任）	経理部
	加瀬 洋	総務部
	高橋 一	総務部
	安齋 文明	管財部
	鈴木 美由紀	教務部
	岸本 圭生	就職部
	草野 優芽	入学事務広報部
	村田 菜織	高校事務室
事務担当	安藤 岐恵	教務部